

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

専門科目	農村計画学
------	-------

第 1 頁 (4 頁の内)

問 1.

(1)

農地の集積とは、担い手等人・組織に農地面積を集めることである。農地の集約とは、分散錯圃を解消し、一定の場所に特定の担い手の農地を集めることである。

(2)

公共財とは、「消費における非競合性」及び「消費者の排除不可能性」のいずれか一方もしくは両者の特性を備えた財のことをいう。このような特性により、社会資本のような公共財は市場の原理が働きにくいことから、公共(政府)の管理が必要となる。

(3)

開発を行おうとする者に事前審査を義務づけ、審査に通った場合に限り開発の着手を認める制度のことである。区域区分を前提とせずに、申請された開発案件を一件ごとに審査する点が、ゾーニングとは異なる。

(4)

ゾーニングは、土地の用途や機能等により、計画区域の全体または一部を小区域に区分し、小区域ごとに異なった土地利用規制をかける制度のことである。土地利用計画の中心的な実現手法として用いられる。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

専門科目	農村計画学
------	-------

第 2 頁 (4 頁の内)

問 2.

労働生産性の向上では、整形区画の形成、十分な幅員を持った農道・進入路の整備、および暗渠排水による速やかな田面排水の実現等により、農業機械による作業性が向上する。また、道路の舗装や水路の暗渠化が図られることにより、これらの維持管理が簡素化される。これらにより、農地の労働生産性が向上する。

次に土地生産性では、土層改良、暗渠排水の整備等による排水性の向上、耕盤形成による湛水能力の向上とこれによる肥料等保持力の強化等により、高品質、高収量作物生産が図られる。すなわち、圃場整備により、農地の土地生産性が向上する。

最後に、土地利用秩序の形成については、圃場整備における換地制度により、農村地域の生活環境の向上に資する非農用地の計画的創出が可能となり、農村地域全体の土地利用秩序形成が図られる。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

専門科目	農村計画学
------	-------

第 3 頁 (4 頁の内)

問 3 .

線引き都市計画区域では、農村地域は市街化区域と市街化調整区域とに分けられる。

市街化区域では、農地転用が届け出制となることから、農地転用が誘導される。市街化調整区域では、農業振興地域との積極的な重複がみられることから、農村地域は「市街化調整区域の開発規制」(技術基準・立地基準による開発許可制度の適用)および「農用区域内農地の原則転用不可」という二重の開発規制がかかることとなる。このように、線引き都市計画区域では、市街化調整区域が設定されることで、農業振興地域と都市計画区域が重複するエリアの農地転用が抑制されるという特徴をもつ。

一方、非線引き都市計画区域では、市街化調整区域が設定されない。これにより、大幅に規制が緩和され、開発規模が 3000m² 未満であれば許可不要で行うことができる。したがって、農業振興地域と都市計画区域が重複するエリアが開発(農地転用)されやすいという特徴をもつ。

このように、非線引き都市計画区域と線引き都市計画区域とでは、農地転用や開発規制という点において農村地域の取り扱いが異なる。

【正解又は解答例】

令和8年度 愛媛大学大学院農学研究科入学者選抜学力検査

(生物環境学 専攻 地域環境工学 コース)

専門科目	農村計画学
------	-------

第 4 頁 (4 頁の内)

問 4.

(1)

圃場整備が水田生態系に負の影響を及ぼす理由は、主に施工時と整備後の環境とに大別できる。前者について、圃場整備では、生態系の再生可能なスピードと規模を越えて、短い期間で広い範囲が環境改変されるため、施工時に生態系の破壊・消失が生じる。後者について、圃場整備によって乾田化や水路の暗渠化等が行われることで、整備後の水田環境では、水生動物の移動阻害等が生じ、生物の生息場所が減少・分断・消滅する。

(2)

1位：回避	2位：最小化	3位：修正
4位：軽減	5位：代償	

(3)

選択した原則：回避、最小化、修正、軽減、代償のいずれか一つ
説明：回避とは、開発行為の全体または一部を実行しないことにより、影響を回避することをいう。例として圃場整備エリア内の湧水池や土水路の保全(そのまま残す)がある。 最小化とは、開発行為の実施の程度又は規模を制限することで、影響を最小化すること。例として、自然石等を利用した護岸として生態系に配慮した用水路を設置することがある。 修正とは、影響を受けた環境そのものを修復又は回復することで、影響を修正すること。例として水路網の落差に設置する魚道がある。 軽減とは、開発行為の期間中に環境を保護及び維持することで、時間を経て生じる影響を軽減することをいう。例として、環境の保全が困難な場合に一時的に生物を捕獲・移動し影響を軽減する一時的移動がある。 代償とは、資源又は環境を置換又は供給することで、影響を代償すること。例としてビオトープ等の湿地等を工事区域外に設置し、同等の環境を確保することがある。